



沖縄関係資料を活用しよう！ ～郷土資料分類と沖縄資料室～

さて、皆さんは「日本十進分類法」というものをご存知でしょうか？

これは、図書館の本を分野ごとに分類したものであり、「0 総記」から始まり「9 文学」まで、10のカテゴリーに分けられています。

例えば、右にあげた本。たまたま手元にあったものですが、背表紙を見てみると、「222.01」という番号が振られています。百の位の「2」は歴史分野の本の意であり、以下の桁で、各分野ごとにさらに細分されます。歴史分野の場合、十の位で地域・分野を表し「2」はアジア史・東洋史、一の位でさらに地域を特定し、「2」は中国史、小数点以下の「01」で通史、と絞り込んでいけるわけです。

この分類は、基本的に全国共通ですが、琉球大学附属図書館には、沖縄関連図書の種類に特化した、「郷土資料分類」というものが存在するのです。

郷土資料分類

郷土資料分類は、附属図書館にて作成された分類法です。百の位は、日本十進分類法と共通ですが、十の位以下が異なってきます。例を挙げて見てみましょう。

2類 歴史分野-206.1：先史時代、206.2：古琉球、206.4：近世琉球、

206.5：近代沖縄、206.6：戦後～復帰前、206.7：復帰後

7類 芸術・美術分野-761：琉球古典音楽、762：三線、763：民謡、

768：琉球舞踊、775：沖縄芝居・琉球歌劇

9類 文学分野-911：おもろ、913：琉歌、951：沖縄戦、

990：漢詩詩文・琉球漢詩

と、このように、特徴的な細分がなされています。これはほんの一部の抜粋であり、まだまだ多くの分類が存在しています。以下のリンクから見てみましょう。

<https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/okinawa/classification/>

「沖縄資料室」に行ってみよう！

こうした、沖縄関係の資料に特化した場所が、附属図書館本館2Fにある「沖縄資料室」です。正面玄関に入って右手、受付カウンターの先にあり、大きく開架と閉架に分かれています。

開架資料室は、カウンター奥のガラス扉の先にある部屋です。図書館の開館時間中であれば、だれでも入室可能で、資料も自由に借りることができます。

閉架資料室は、受付カウンターの向かい側、開架資料室に向かって左手前のカウンター奥にあります。こちらは学部学生の立ち入りは基本的にできず、閲覧したい資料がある場合は、専用フォームから依頼して、出納してもらう形となります。資料閲覧も館内限定となり、館外持ち出しはできません。ですが、閉架にしか置かれていない、貴重な資料も数多く所蔵されていますので、積極的に活用しましょう！

また、図書館カウンターでは、琉球・沖縄関連の図書に関する相談も受け付けていますので、疑問点がある方は、ぜひ問い合わせてみてください。(対応時間：平日9:00～17:00)

Q：右上に挙げた①～④の画像は、実際に資料室にある本の分類です。

沖縄開架資料室に行って、探してみましよう！

(地域共創研究科 MI)

